

## 事例 8 楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合う態度を養うことをねらった実践

○学年 第1学年

○主な領域 [思考力, 判断力, 表現力等] C 読むこと

○事例のポイント

- ① 1年生段階でも個に応じた学習を実現するため、児童が「選択・決定」を行い、「自覚・調整」を促す学習環境を設定する。
- ② 児童が自らよりよく学ぶため、教師が児童の学びを受け止め、興味・関心を示し寄り添いながら、一人一人に合わせてアプローチの内容や教師の立ち位置を変える。

### ICTを活用した主な学習場面

- ・活動の場面
- ・振り返りの場面

### ICT活用の利点

- ① 音読劇などを撮影し、見返すことで、自分の活動と教科書の言葉を結び付けて考えられる。
- ② 毎時間の学習を可視化するとともに、蓄積していくことで、自らの学びを自覚しながら、できることが増えていく達成感を味わえるようになる。

## 1 単元名・教材名 ことばっておもしろい「おおきな かぶ」

### 2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童はこれまでの国語の授業で、絵や物、他者や目に見えないものに言葉が結び付くことに気付くようになってきた。「はなのみち」では、「どのように」学ぶか、活動を自分で決めながら学習に取り組むことも経験してきた。今後は言葉を正確に理解しながら、活動の楽しさとともに、少しずつ学びを自覚することも楽しめるようになってほしい。

本教材「おおきなかぶ」は、「うんとこしょ、どっこいしょ。」という繰り返しの動作や、かぶを引き抜くという想像しやすい展開により、内容の大体を捉えやすく、児童が音読や動作化を楽しめる教材である。しかし、「まだまだ」や「やっぱり」という表現の違いや、「かぶをおじいさんがひっぱってー」と、目的語が先に来る文章表現により、言葉を正確に理解しながら場面の様子を捉える必要がある作品でもある。

本単元を指導するに当たって、小学校学習指導要領（平成29年3月）の第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の指導事項「イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。」を重点的に指導しながらも、学びに向かう力の更なる涵養を目指す。具体的には、「ことば」と繋がることで学びが広がっていく、という国語の時間の共通理解をもったうえで、一人一人が学習活動を設定していく。単元の導入では、「はなのみち」でどのようなことをしたか想起しながら、その時の学びについてうまくいったかどうかを児童に問う。そこで出てきた意見を基に、「うまくいった」とはどういう様子か、「ことば」をキーワードに確認していく。その後、物語を読み聞かせ、どのような活動が楽しそうか意見を出し合い、自分のやりたい活動を選んでいく。単元の中盤では、どこで、誰が、何をしたのか、音読や動作化を楽しみながら確認し、人物の内言を想像する活動を通して内容の大体を理解できるようにする。また、「学ぶ場所・活動」をそれぞれが考えて好きな学習活動に取り組める時間を設けることで、学びを楽しみながら自分の活動を自覚できるようにする。教師はそれぞれの児童に対して、立場を使い分けてアプローチし、一緒に学び関わっていく。加えて、毎時間学びを振り返る場を設定することで、学びを自覚し次の学習の見通しをもてるようにする。最後には、単元で分かったことや面白かったことを共有する時間をとることで、より自分の学びを自覚できるようにしたい。





(2) 評価規準

- 自ら設定した活動に向けて学習を調整し、粘り強く場面の様子や登場人物の行動を捉えようとしている。  
【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返る。	○主語と述語の関係	○前時の学習で読み取ったことを振り返り、本時の活動に見通しがもてるようにする。 ○必要に応じて ICT 機器で前時の学習の様子を写した写真などを共有し、これまでの学習を可視化することで、より具体的に前時を振り返ることができるようにする。	3
編 P36 指導計画作成の留意事項(2)			
<b>ICT活用の利点②</b> 毎時間の学習を可視化するとともに、蓄積していくことで、自らの学びを自覚しながら、できることが増えていく達成感を味わえるようになる。			
2 本時の学習を確認し、活動を選ぶ。	○内容の大体の捉え方	○どのように進めるとよいか、それぞれの思いを共有することで、一人一人が自己調整しながら取り組めるようにする。	5
「おおきなかぶ」をたのしめる かつどうをえらぼう。			
3 共有した見通しを基にそれぞれが設定した学習活動を行う。	○言葉がもつよさの捉え方	○教師は児童に対して以下の5つのように関わることで、児童が楽しみながら学びを自覚できるようにする。	32
事例のポイント② 児童の学びを受け止め、興味・関心を示し寄り添いながら、一人一人に合わせてアプローチの内容や教師の立ち位置を変える。			
編 P36 指導計画作成の留意事項(6)			
① <u>導く</u> ：何をするか悩む児童に対して、前時までの様子を見せながら何をやってみたいか尋ねたり、それに必要な文具や活動例を示したりすることで、見通しをもって1時間の学習に臨めるようにする。 ② <u>ゆだねる</u> ：「相手」「場所」「活動」をゆだねることで、児童が自分なりに納得のいく学びができるようにする。 ③ <u>受け止める</u> ：教師が率先して児童の学びを受け止め、興味・関心を示すことで、互いに様々な学びを受け入れ、より自分の学びを進められるようにする。 ④ <u>伝える</u> ：教師が考えた活動や読んだ内容を伝えることで、繰り返し出てくる言葉や「まく」と「うえる」の違いなど、児童だけでは気付かない視点からも考えられるようにする。 ⑤ <u>共に生み出す</u> ：児童の活動に入り、一緒になって話し合うことで教師も含め、学級全体でよりよく学ぼうとする態度を養う。			



【人物の行動を想像しながら読む児童】



【場面の様子を想像して劇を行う児童】



【本文に読み方メモを書き音読する児童】

〈期待される児童の反応例〉

- ・劇をやりたいから、役割を分けるよ。「やっぱり」って、少しあきらめている様子なのかな。
- ・絵本を作りたい。書いてないセリフも想像して書きたいな。

4 学習を振り返り、次時の学習活動を知る。

評価規準

【主体的に学習に取り組む態度①】

単元の見通しの聞き取りや観察

- ・粘り強く場面の様子や登場人物の行動を捉えている児童をBとする。

〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉

- ・見通しがもてない児童に対しては、どのような活動をしたらよいか共に考え、そこに繋がる叙述に着目するよう声をかける。

○振り返りの仕方

○具体的な児童の姿を例に挙げながら振り返ることで、次時の具体的な見通しをもてるようにする。

○丸や三角などの記号も一緒に書くことで、言語化することが難しい児童も自分の学習を価値付けることができるようにする。

5

(4) 板書計画

<p>ふりかえり つぎのやりかた にやりたこと ◎○△</p>	<p>おはなしづくり</p>	<p>おんどく</p>	<p>げき</p> <p>今日やりたい活動に ネームプレートを貼る</p>	<p>『おおきなかぶ』をたのしめる かつどうをえらぼう</p>	<p>めあて</p> <p>ぬけれども、かぶは おかしいなあ こまつたな</p>	<p>「うんとこしよ、 どっこいしよ。」 くりかえし</p>	<p>おおきなこえ ふんばって</p>	<p>○がっ○にち おおきなかぶ</p>
---	----------------	-------------	---	-------------------------------------	--	--	-------------------------	--------------------------